

現代社会学科の第一歩

神原 文子¹⁾

2014年4月に現代社会学部がスタートするまで、そして、スタートしてからも、いく度となく、受験生、保護者、あるいは、高校の先生などから、「現代社会学科ってどんな勉強をするのですか?」と質問を受けてきました。そのたびに、私自身は、「現代社会学科では、神戸や兵庫といった地域社会を拠点とし、人々の生活をトータルに捉えながら、たとえば、家族や職場や学校などで引き起こされるさまざまな問題の解決策を見つけるために、社会学、経済学、政治学などの専門的知識や技量を身につけて、いろいろなデータを収集し分析するのです」といった説明をしてきました。

効果のほどはわかりませんが、「いろいろなところに出かけるのはおもしろそう」、「今の世の中のことに関心があります」といった動機から、予想以上に多くの受験生が本学科を受験し、優秀な学生たちが入学してくれたことは、嬉しいかぎりです。それだけに、新入生たちの期待を裏切るわけにはいかないと考えてきました。

スタートから1年近く経ってみますと、私自身、現代社会学科に入学してきた学生たちの多くが、卒業時には、「現代社会学科に入学してよかった」と、思ってもらえるに違いないという、確信にも似た思いを抱くことができます。

その確信の根拠は、個性豊かで、実績の優れた11名の教員が存在し、そして、教員それぞれが「良い学科にしたい」、「学生たちには多くのことを学んで欲しい」、「学生たちにおもしろい経験をいっぱいしてほしい」と願いながら、教育に研究に積極的に取り組んでいる様子が、折に触れて私には伝わってくるからです。

では、私自身はどうなのでしょう。学生たちにどのようなことを伝えたいと思っているのでしょうか。

実は、私自身は2014年4月に人文学部人文学科から移籍しましたから、まだ、人文学科に属する現代社会学領域でのゼミを担当しているのです。16名の4回生が無事に卒業研究をまとめることができました。

その4回生たちがまとめた卒業研究のテーマをとおして改めて気づかされたことは、①個人的な事柄は同時に社会的であるということ、そして、②アンケート調査にせよ、インタビュー調査にせよ、調査によって明らかにできる事柄はまだまだあって、奥深いという点です。

たとえば、鳥取から神戸にやってきたMさんは、自身が神戸市内のカフェが大好きになったことから、「大学生のライフスタイルにおけるカフェ利用について」という研究テーマのもとに、学生260名にアンケート調査を実施し、学生のライフスタイルを類型化するためにクラスター分析を活用しました。そして、活動的でひとりでも個人経営のカフェに通う「カフェ愛好型」、友だち関係を大事にし、友だちと一緒にチェーン店を利用する「カフェ交友型」、部活やゲームなど自分のやりたいことにはお金を使うがカフェには興味がない「カフェ無関心型」というライフスタイルの存在を明かにしました。また、高校生の時からAKB48のファンであったというFさんは、早くから研究テーマを「AKB48のファンの在り方とライフスタイル」と決めて取り組み、ライブや握手会やオフ会などに頻繁に出かけてファン同士のつながりを築き、28名のファンへのインタビュー調査から、彼ら/彼女らのファンとしての活動と、主に交友関係、経済面、恋愛面などの日常生活とを関連づけながら、男女差や年代差によって異なるファンの特徴的なライフスタイルを明かにしました。

社会事象に“重いか軽いか”の違いなどありません。どのような事象でも真っ正面から見据え、アクティブ・ラーニングによって問題解決の糸口を掴むという熱い思いをこれからも大事にしていきたいと思っています。

¹⁾ 神戸学院大学現代社会学部現代社会学科